

令和 6 年度 東京都公立大学法人中期計画進捗状況に対する所見

東京都公立大学法人（以下「法人」という。）の業務実績について、地方独立行政法人法に基づき実施する評価に資するため、令和 6 年度末時点における中期計画の進捗状況を法人が自ら確認した結果について、以下のとおり所見を取りまとめる。

■ 主な所見

東京都公立大学法人は、第四期中期計画の 2 年目である令和 6 年度において、将来の東京の成長を支える人材の育成など幅広い事業を展開し、その多くで評価指標の達成に向けて着実に取組を進めており、順調な中期計画の進捗状況にある。

【東京都立大学】

アントレプレナーシップ教育を推進するため、正規の授業科目として「アントレプレナーシップ入門」を新規開講するとともに、都立大初の学内ビジネスアイデアコンテスト等のイベントを開催するなど、起業家的な精神と資質・能力を備えた人材を育成する取組を進めている。

【東京都立産業技術大学院大学】

高度情報専門人材を育成するプログラムの提案が、文部科学省の助成事業に採択され、従来の教育内容に情報アクセラレーターなど 3 つの新分野を加え、次世代の DX リーダーを養成する体制の強化を図っている。

【東京都立産業技術高等専門学校】

学生の課外活動に対し、教員や外部指導員による専門的な指導などの支援を積極的に行うことで、ディープラーニングコンテストで最優秀賞を獲得するなど、複数のコンテストで成果を上げており、学生生活が活性化している。

【法人運営全般】

寄附金の募集に当たり、用途を明確化する新たなメニューを設定し、寄附者からの賛同を得られやすくするとともに、受入事務の集約化等によって手続きの効率化を図るなど、寄附件数の拡大に向けた取組を進めている。

■ 総括

東京都公立大学法人（以下「法人」という。）は、第四期中期計画の2年目に当たる令和6年度において、東京の成長を支える人材の育成など多岐にわたる事業を展開し、その多くで評価指標の達成に向けて着実に取組を進めており、順調な中期計画の進捗状況にある。

法人の設置する東京都立大学（以下「都立大」という。）、東京都立産業技術大学院大学（以下「産技大」という。）及び東京都立産業技術高等専門学校（以下「産技高専」という。）は、これまでの取組の成果を基に施策のブラッシュアップを図り、各校の特長を生かして、イノベーションの創出や教育研究の国際化を促進する新たな事業を積極的に展開している。

今後、AI 活用の進展や人口減少、国際情勢の不確実性の高まりなど法人を取り巻く環境が変化し続ける中、都立の高等教育機関としての役割を一層発揮していくためには、法人自らの経営管理として、計画の達成に向けた具体的ステップを明確にしつつ、社会経済の動向や実績の推移を的確に捉えて、目標の見直しにも機動的に取り組んでいくことが望まれる。